全国検数労連

４６５号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港福会館５階
Tel　03(3733)5621　　Fax　03(3733)5622
メール　　roren@kensu.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局

# 11月27日（木）第5回　14冬季一時金交渉　13:30～15:00

# 最大限の追求も、修正回答は困難と判断。機関手続きに入ることを表明。

## 【日検協会最終回答】（抜粋）

支　給　額
（本給＋家族手当）×乗率＋一律＋都市調整加算＋α
（193,131円＋8,314円）×2.0＋50,000円＋24,450円＋α

全国平均　477,340円＋α

見習員
｛（本給＋家族手当）×乗率＋一律＋都市調整加算＋α｝
×0.8ヶ月×在籍日数／180日

## 【全日検最終回答】（抜粋）

支　給　額
（本給＋役付）×乗率＋一律＋α
（198,479円）×1.320＋159,703円＋α

全国一人平均　421,695円＋α

一　律　＝　職員Ａ215,000円
　　職員Ｂ150,000円
α　＝　調整加算

特別評価＝5,000円

その他身分
見習職員・契約職員　　全国一律　80,000円
　　契約雇員　　全国一律130,000円

11月27日（木）第5回14冬季一時金交渉で、労組は両協会に対し、修正回答を求めました。

## 【全日検主張】

前回の交渉で有額回答を提示し、労組より修正回答を求められ持ち帰り検討をしたが、支部独算的運営の中で支部体力を大きく超えた回答であり、これ以上の修正は困難である。

算式等について、労組要求の家族手当については若年層に配慮した考えの結果での対応である。

特別評価については、マイナスの評価はしない中で『勤務実態、作業遂行能力、協力度』など頑張った者への評価である。

見習い職員への計算式については、見習い期間の短縮を労務案として検討している中で、今回は一律での対応とした。

雇員と契約職員の回答についても一律としたが、昨冬・昨夏比より増額している事を理解願いたい。

諸要求について、全て原資が掛かる問題であり、先議課題がある中では難しい。

## 【日検協会主張】

前回の交渉で労組より回答に対する修正を求められ、持ち帰り再検討したが、現回答が最大限努力した回答であり、これ以上の修正は困難であることをご理解願いたい。

諸要求の厚生年金負担割合の改善の改善については困難であることをご理解願いたい。

国民的課題については日検として回答する立場にないと判断する。

## 【組合主張】

労組は休憩を挟み、両協会の回答を分析。次のとおり主張を行いました

## 【全日検に対し】

額について単純比較で夏比・昨冬比プラス回答となっており、一定評価できる。

家族手当・地域年齢手当については回答に入っておらず不満である。全日検から示された『若年層への配慮』との回答は逆に矛盾を生じさせる結果となる。

見習い職員に対する一律回答には不満であるが、現在検討中である見習い職員期間の短縮等の変更に期待する。

契約職員、契約雇員は職員同様に収支に貢献しているにも係わらず、一律回答には不満が残る。

全日検がこだわり続けている『特別評価』回答には不満である。

## 【日検協会に対し】

金額的には単純比較で夏比・昨冬比プラス回答となっており、一定評価できる。

労組要求の趣旨を組み入れた回答には一定評価できる。

乗率回答に上積み修正がなく不満である。

## 【両協会に対し】

要求額との関係では未達となっており不満である。

組合が要求していない全日検の調整加算、日検の業績加算の回答提示に強い不満が残る。

要求との関係では不満が残るものの、これ以上の修正は困難と判断した。よって、現到達をもって収拾の時期と判断し、機関手続きに入ることを表明した。

※次回交渉
第６回１４冬季一時金交渉

12月３日（水）

１３：３０～